

光明寺だより

第76号
浄土真宗本願寺派
光明寺

〒793-0030 西条市大町550
TEL 0897-53-4583



心に残る詩



ない

仙台市立木町通小学校6年

岩見夏希

そこにあるはずの
風景
思い
ぜんぶない
でも
そこにあった
ものをとりもどす
ために
がんばっている
ぼくたちには
まえとはちがうが
必ずいいものが
帰ってくるだろう

*ダンボールに書かれた右の詩は、町役場のロビーに置かれ被災者の人々を勇気づけています。

彼岸会法座

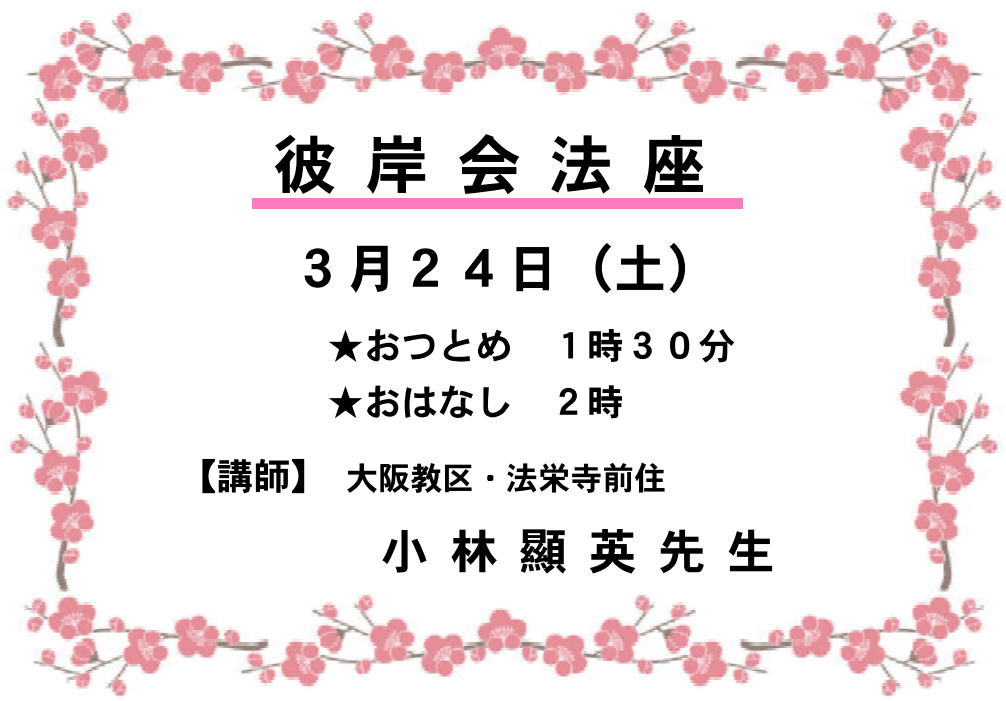
3月24日(土)

★おつとめ 1時30分

★おはなし 2時

【講師】 大阪教区・法栄寺前住

小林顯英先生



一口法話

無縁社会・有縁社会



毎年、その年の世相を表わす漢字が公募によって選ばれますが、昨年（平成二十四年）は「絆」という漢字が選ばれました。

これは言うまでもなく、東日本大震災の大規模災害によって、多くの日本人が家族や人と人との繋がりの大切さを改めて知ったことによるものです。

清水寺の森清範貫主は「みなが手をひとつに携えて復興を重ねていこう。そんな願いを込めて書きました」と語っていました。

震災前の日本はというと、家族、地域社会、会社などで、人と人とのつながりがまことに希薄になった、いわゆる「無縁社会」と呼ばれるような社会になっていました。「他人は他人、自分は自分」という潤いのない社会です。

所在不明の高齢者が次々と明るみになったり身元不明や遺族が引取りを拒否する無縁死が年間3万2千人に上るといふ異常なことが起きていたのです。

心ある人たちは、このままいけば近い将来、日本の国は滅んでしまうのではないかと何かしななければ、という危機感を持っていました。

そんな矢先に今回の震災が起きたのです。これは無縁社会に追い討ちをかけるような災難ではないかと思いました。

ところが、この大災害のさなか、我が身の危険を顧みず住民の避難活動に当たられた方がたくさんおられたのです。

防災無線で「津波が来ます、高台に逃げて下さい」と住民に避難を呼び続け殉職された二十四歳の女性職員佐藤未希さん。

海岸近くの人を助けようとして津波に飲まれた駐在所のおまわりさん、千田浩二さん。

約二十人の中国人研修生を高台に避難誘導し、自らは逃げ遅れ犠牲になった水産会社の佐藤充さん。

他にも、多くの人が自らの命を賭して、救助に立ち向かわれたのです。

被災地で示された、こうした人々の勇敢で崇高な姿に私たちは涙しました。また、その後の被災者の人々の立派な振る舞いに重ねて深い感動を覚えました。

私たちは、何としてもこの人たちの為に自分の出来る精一杯の支援をしようと立ち上がったのです。

自衛隊、警察、消防を始め全国の自治体、民間企業、ボランティア団体、個人にいたるまで、あらゆる人々が支援活動に加わりました。

ある雑誌にはこんなエピソードが紹介されていました。

子供がお菓子を持ってレジに並んでいたけれど、順番が近くなり、レジをみて考え込み、レジ横にあった募金箱にお金を入れ、お菓子を棚に戻して出て行きました。店員さんがその子供の背中に向けてかけた「ありがとうございます」という声が、震えていました。

まことに心温まるエピソードです。こうして小さい子供さんに至るまで、心一つにして支援の手を差し伸べたのです。

支援の輪が広がりを見せるにつけ、「私たちはみんなつながっているんだ」という思いを強く持つようになりまし



た。この「つながっている」というのを仏教では「縁起」と言います。

言わば、この世界は一つの巨大な網のようなもので、すべてのものが因となり縁となり、重々無尽に絡み合って(つながって)しかもお互いが他を生かしているのです。私に関係のないものはありません。

このことが分かれれば、「他人は他人、自分自分」などと無関心を装っておれなくなります。それどころか、何を見ても他人事とは思えなくなるのです。

そこに、人の苦しみや悲しみを我が苦しみや悲しみとする心が生まれるのです。それを「同悲同苦」の心と言います。そうして、この心の満ち溢れた社会こそ仏教の目指す社会なのです。

この社会は、「無縁社会」に対して「有縁社会」と呼べるでしょう。

無縁社会は、「何を見ても他人事にしか見えない」冷たい孤立社会です。

有縁社会は「何を見ても他人事とは思えない」暖かい絆社会です。

思えば私たちは、今回の震災によって多くのものを失いました。しかし一方では、「有縁社会」という素晴らしい社会を手に入れようとしています。

復興は今やっと緒についたところですが、これから長い時間をかけて厳しい再興の道を歩まねばならないでしょう。

しかし、今回の震災で改めて知った「絆」の大切さを忘れずに、ともに助け合い支え合う同悲同苦の社会を実現することが出来れば、その社会は必ずや人類のお手本になるだろうと思います。

その時私たちは、「今回の大震災は、有縁社会を作るためになくてはならないご縁であつたんだなあ」と喜んで受けとめることが出来るのです。

まさに、この世界に無駄なものはないのです。



「東日本大震災」

義援金・支援金のお願い

【義援金】

郵便振替 01000-4-69957
加入者名 たすけあい募金
※通信欄に「東日本大震災」とご記入下さい

【支援金】

郵便振替 01060-8-100
加入者名 浄土真宗本願寺派 宗務所
※通信欄に「東日本大震災支援金」とご記入下さい

支援金はボランティア活動や復興支援活動等の経費に充当するものです。



別離の年の出来事

2012年(平成24年)
年 回 表

お法事は亡き人を偲び、日頃忘れかけているいのちのつながりの深さに思いをいたし、この私が仏縁に遭わせて頂くための大切な仏事です。別離の年、どんな出来事があったか、改めて振り返ってみましょう。亡くなってから1年目の法事は1周忌、2年目は3回忌、6年目は7回忌12年目は13回忌となっていくます。

1 周忌 平成23年 (2011)	「東日本大震災」 2月大相撲八百長問題で春場所中止。 3月東日本大震災発生。死者行方不明者約2万人 6月女子サッカーW杯ドイツ大会で日本(なでしこジャパン)初優勝。 10月タイ大洪水に見舞われる。
3 回忌 平成22年 (2010)	「口蹄疫」 2月第冬季オリンピック(バンクーバー)開催。5月宮崎県で家畜伝染病「口蹄疫」発生。 6月サッカーW杯南アフリカ大会開催。 8月チリ落盤事故発生。 11月北朝鮮、韓国延坪島にロケット砲撃。
7 回忌 平成18年 (2006)	「悠仁親王ご誕生」 2月冬季オリンピックで荒川静香金メダル。3月第1回ワールドベースボール大会で日本優勝。 7月北朝鮮ミサイル発射、日本海に着弾。 9月秋篠宮ご夫妻に悠仁親王ご誕生。
13 回忌 平成12年 (2000)	「シドニー五輪開催」 2月北海道有珠山噴火。4月小渕首相脳梗塞で倒れる。森内閣発足。 6月雪印乳業集団食中毒で操業停止。9月シドニーオリンピック開催。高橋尚子金メダル。10月白川秀樹ノーベル化学賞受賞
17 回忌 平成8年 (1996)	「O-157発生」 3月北海道豊浜トンネル崩落事故。 7月大坂を中心に集団食中毒O-157発生。 8月寅さんこと渥美清亡くなる。アトランタオリンピック開催 12月長野県で土石流発生。8人重軽傷。14人死亡。
25 回忌 昭和63年 (1988)	「瀬戸大橋開通」 3月青函トンネル開通。4月瀬戸大橋開通。 7月リクルート事件発生。自衛隊潜水艦「なだしお」釣り船と衝突。釣り客30人死亡。 9月ソウルオリンピック開催。 10月藤ノ木古墳発掘。
33 回忌 昭和55年 (1980)	「山口百恵引退」 5月モスクワオリンピック不参加決定。 6月大平首相死去。 7月富鈴木善幸内閣誕生。 9月富士山登山道で落石。12人死亡 10月山口百恵引退 11月金属バット殺人事件発生。王貞治選手引退
50 回忌 昭和38年 (1963)	「ケネディー大統領暗殺」 5月黒四ダム完成。6月世界初、女性宇宙飛行士テレシコワ地球を48周。 8月エースコック「ワンタンメン」発売。 11月ケネディー大統領、ダラスで暗殺。



「新春法座」厳修！

法座風景



さる1月10日(火)、藤田徹文先生をお迎えして恒例の「新春法座」を開きました。

先生は心筋梗塞の後遺症で視力が落ち、道中の電車の乗降がおぼつかない為、奥様同伴でお越しいただきました。

ご自身の体験談を交え、大変味わい深いお話を聞かせていただきました。1時間30分があつという間に過ぎたようでした。

【講演主旨】

仏教では「いのち」とは、この身のことを言います。昔の人は「いのちを大切に」という意味で「お身大切に」とか「お身お厭い下さい」と言っていました。

どうして私たちはこの身を生きていられるのかといえば、それは、この身を貫いて、この私を生かし、支えて下さっている「ハタラキ」があるからです。

ところが私たちは、自分の力で、この人生を歩んでいると思っています。

うまくいけば自分に能力があるからだと思惚れ、うまくいかなければ周りが悪いと腹を立てる、そんな人生になっているんじゃないですか。

仏教は、そんな私たちに、我がいのちを生かし支えて下さっている「ハタラキ」に目覚めて下さいと教えるものです。その「ハタラキ」は私が気付こうが気付くまいが、常に我が「いのち」に届いています。

時間、空間、無限に広がりを持ったその「ハタラキ」を、インドの言葉で「アミダ」と申すのです。

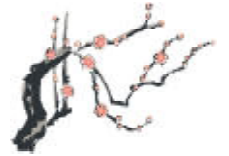
杉（北山杉）植栽！

1月31日、上喜多川の石川孝之さん、博史さん親子のご好意で駐車場の東端に杉を6本植えていただきました。杉は石川孝之さんが自宅で苗木から育てたもので、北山台杉（通称一北山杉）と呼ばれるものです。今から成長が楽しみです。

一『前人、木を植えて 後人、涼を得』一



趣味の広場



俳句を楽しむ(五十五)

森本隆を

平成二十四年、穏やかなお正月でした。などと言う間にもう二月です。寒明け、節分、立春、二月と聞くと、そろそろ日脚も伸びる頃かと心なごむ思いがしますね。しかし現実的には二月という月は寒さと暖かさ

れません。そう思っただけでその俳句年鑑の約六千五百句をざっと眺めて拾い出すと、直接「二月」を詠んだ句は十三句しかありませんでした。自然の風物や二月の行事などでこの季節を詠んだ句はいくつかありましたが、「二月」のままでは内容の上でも音数の上でも難しいのです。

二月や少女シャボンの匂ひせる

黒岩 秀子

二月や座して凭る太柱

小岩 和子

仕方なく打つ二月の古時計 野村セツ子

「二月」を発音上「ン」をはさんで音数を四

音にして詠み易くと工夫した句ですね。但し

この工夫も二月だけで、四月、五月、九月な

どには用いられません。そのまま「二月」の形で

詠んだ句としては、

矢車のひかり二月の少女の鬱 六角 耕

故郷の木二月の声を降りしぼる 酒井鷺風

口淋し冷凍餅を焼く二月 倉澤 静子

事もなく短き二月惜しみけり 工藤 隆子

やはり「二月」という二音では他の何らか

の語と組み合わせさせて詠む、という工夫が要る

ので、句の内容としては全体的に物足りない

感じがしてしまいます。後々にまで残るよう

な句はどれも奥深さとか余情余韻のようなも

のが必要と言われますが、二月の句には少々

難しい条件のようですね。

また、二月に特有の物をくつつけてひとつの語句をつくり、句に詠むという別の工夫も

みられました。一番に思いつく物は「梅」ですね。

連れ添うて五十一年梅二月 岡野 寿男

城門で返す走者や梅二月 南原スミ子

紙漉きの青年の瞳や梅二月 木上 律子

人間の知恵が作り出した暦というものの中

の二月という語の響きに込められた、もうす

ぐ訪れてくれる「春」という季節への大いな

る期待感と、目の前にポツと開いた梅の花に

感じた早い春、この二つの組み合わせで独特

の雰囲気を出した、いい工夫です。

また、二月の別名に「如月ごとけい」があります。語

源としては、「気、更に来る」からきたという

説や、二月は寒暖くり返すので一度脱いだ着

物を「更に着る」からきた、という説などが

ありますが、いずれにしても説得力のある話

です。もちろん「如月」は旧暦なので現在で

は三月に当たります。ともかく「二月」とい

う月は俳句に詠みづらい月なのかな、と私個人

人が思ったという話でした。





ごとう えいじゅ

新僧侶紹介—後藤英樹師—



後藤英樹師



家族写真

本年4月より光明寺に、新たにお坊さん（後藤英樹師）が入寺することになりました。後藤師は、龍谷大学文学部を卒業後、姫路市にある実家のお寺（光明山・真宗寺）で法務（法事、葬儀等）に携わっておりましたが、当山光明寺の若住職と大学時代の同級生というご縁もあり、このたび光明寺の法務全般に協力してもらうことになりました。性格はいたって明るく、前向きで、気配りの出来る青年僧侶です。家族は奥さんと5歳、3歳の男の子の4人家族です。後藤師の入寺に伴い、光明寺では檀家の皆さんに広く対応していけるような体制作りを、これから目指していきたいと考えています。今年の「お取り越し」には紹介を兼ねて住職または副住職に同行いたしますのでよろしくお祈りします。

【履 歴】

本 名 後藤英樹（ごとう えいじゅ）
生年月日 昭和52年6月27日生（満34歳）

平成 7年 浄土真宗本願寺派僧籍取得
平成 8年 兵庫県立姫路南高等学校卒業
平成13年 龍谷大学文学部日本語日本文学科卒業
平成14年 浄土真宗本願寺派教師・法務員資格取得
平成15年 浄土真宗本願寺派 光明山真宗寺にて法務

家族：4人家族（妻 男子2人）
趣味：音楽鑑賞



おねはん 涅槃会

3月15日(木)

- 第1回目 9時～10時
- 第2回目 11時～12時
- 第3回目 13時～14時



愛媛県仏教婦人研修大会

- ★日時 2月28日(火)
1時～3時45分
- ★会場 松山県民文化会館
- 【講師】 龍谷大学 鍋島直樹教授
- 【演題】 中村久子と歎異抄
～念仏の力～
- ★参加費 3千円
- ★持参品 念珠・式章・筆記用具



言葉のプレゼント

すべてが失われようとも
まだ未来が残っている



テレフォン法話
0897-53-4585



「光明寺だより」を
皆さんでお読み下さい

次回発行予定15月上旬



★1月10日(火) 藤田徹文先生をお招きして、新春法座が行われました。25名の参拝者がありました。

(*関連記事5ページ)

★2月28日(火) 愛媛県仏教婦人研修大会が松山で開かれます。

(*関連記事8ページ)

★3月15日(木) は、お涅槃会です。該当者には本紙と一緒に「ご案内」をお送りしています。

(*関連記事8ページ)

★3月24日(土) 春の彼岸会法座が開かれます。ご講師は小林顯英先生(大阪教区)です。

(*関連記事5ページ)

★本年4月より、新僧侶(後藤英樹師)が光明寺に入寺します。

(*関連記事7ページ)

★本山の東日本大震災の義援金が、8億9千万円を超えました。

(*関連記事3ページ)